

リリース・CM・広告掲載

広報活動を重点項目に掲げている琉球通運（喜納秀智社長、那覇市）は、ラジオやプロスポーツチームとのコラボ企画、ホームページなど多様な媒体で物流の重要性と自社の取り組みを紹介し、社会貢献と企業イメージ向上に注力している。

2023年5月、総務部に「広報PR室」を新設。総務課の宮城信一朗課長や金城勝江氏ら若手を中心に戦略を練る。

企業活動を知らせる手段は、ウェブメディアへのリリース配信や地元紙の広告掲載、テレビCMなど様々だ。デジタル、アナログを問わず、媒体ごとにターゲット層を絞り、宣伝効果を狙う。

ドライバー不足が深刻化する中、将来世代への対応するイメージアップ戦略が欠かせない。その一環で2月、子供や若者に人気の

琉球通運 ターゲット層絞り宣伝

サッカーJ3・FC琉球とオフィシャルパートナー契約を結び、各種イベントを応援している。

中でも好評なのは、チームとのコラボで県内全ての小学校にサッカーボール計1064個を寄贈する「FC琉球 夢ボールプロジェクト」。離島の学校を含む県内266校に、小学生がデザインしたカラフルなオリジナルボールを琉球通運の配達車で届けている。



上げている。地元ラジオ局で同社が提供している「ココロほっとドライブ」は、放送開始から10年以上続いている人気の番組だ。月・火曜日は音楽、水・木曜日はクイズ、金曜日は琉球通運グループの社員が登場し、仕事のやりがいやトラックの役割、重要性を紹介する。宮城氏は「ネットラジオのおかげで県外からも感想が届いている。本土で働く沖縄出身の女性ドライバーからは『ウチナー口ぐちのトラックの話が楽しい』と故郷の方言を懐かしむ声もあった。皆さんの心にしっかりと伝わる広報に努めたい」と話す。

（上田慎二）

「FC琉球 夢ボールプロジェクト」のボールを手にする宮城課長左と金城氏